

## 市長記者会見記録

日時：2021年12月22日（水）14時00分～14時23分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：（話題提供）「多摩川スカイブリッジ」がいよいよ開通します（建設緑政局）  
市政一般

### <内容>

#### <<「多摩川スカイブリッジ」がいよいよ開通します>>

【司会】 ただいまから、定例市長記者会見を始めます。

本日は、初めに話題提供として、『多摩川スカイブリッジ』がいよいよ開通します」について、福田市長から御説明いたします。市長、よろしく願いをいたします。

【市長】 それでは、本市と東京都が共同で整備を進めております川崎市殿町「キングスカイフロント」と、羽田空港「羽田グローバルウイングズ」をつなぐ新しい橋、「多摩川スカイブリッジ」の開通が令和4年3月12日に決定いたしましたので、お知らせさせていただきます。

この橋は、多摩川の河口から1番目、世界との玄関口である羽田空港へつながる橋であり、多摩川両岸の成長戦略拠点の形成を支えるインフラとなります。なお、開通に先立ち、開通記念式典を開催する予定です。また、開通直前の週末を中心に各種イベントを予定しておりますので、詳細については別途お知らせいたします。

本日から1週間、道路照明の試験点灯と併せ、開通日を示すライトを橋上に点灯いたしますので、ぜひ御覧いただければと思います。なお、令和4年4月からは、本市の大師橋駅などからキングスカイフロントを経由して、大田区の天空橋駅を結ぶバス路線が運行される予定ですので、併せてお知らせいたします。

多摩川スカイブリッジの開通により、世界との玄関口である羽田空港や、多摩川対岸で拠点形成が進む羽田グローバルウイングズと本市キングスカイフロントがつながり、空港を中心とした一体的なエリアが形成されます。多摩川両岸が一体的な産業拠点となるという意味では、大変大きな意義を持つ橋だと考えています。また、本市においては、キングスカイフロント以外の臨海部にとっても、新たな産業が生まれる起爆剤となることを期待しております。

私からは以上です。

#### <<市政一般>>

【司会】 それでは、ただいま御説明しました話題提供の件と市政一般に関する質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いをいたします。

#### 《「多摩川スカイブリッジ」がいよいよ開通します》

【朝日(幹事社)】 まず、このパネルと一緒に写真を撮らせていただいていたいいですか。

【市長】 はい。

(写真撮影)

【時事(幹事社)】 これまで何度も伺ってございましたけれども、開通が直前になったということで、改めて意義とか、この橋の果たす役割についての期待等を教えていただけますでしょうか。

【市長】 本当に悲願であった橋がようやく開通ということで、私にとっても非常に感慨深いものがあります。当然のことながら、羽田空港と川崎を橋で、全長840メートルの道路(※補記)というものでつながるという意味では、川崎が世界への玄関口になったと文字どおり言える、そういったものになったと思いますし、先ほども御説明した、羽田、東京側、そして川崎側がまさに一体となって新しい産業拠点になるという意味での、それをつなぐという意味では非常に大きいものがあると思っています。

#### 《今年の漢字と来年への期待について》

【時事(幹事社)】 ありがとうございます。あと、毎年恒例になっておりますが、今年の漢字、御披露いただければと思います。

【市長】 はい。ちょっと照れてしまいます。

(写真撮影)

【時事(幹事社)】 それをお選びになった理由についてお聞かせください。

【市長】 今年も新型コロナウイルスとの闘いという意味では、ワクチン接種事業もそうでしたけれども、いろんな未知なるものとの「挑」戦だったという意味で、私だけじゃなく職員一同そうですし、本当に市民の皆さんにも様々な御協力をいただいて、困難なところに「挑」んだ一年だったなと思っています。

それから、明るい話で言えば、フロンターレをはじめ、ブレイブサンダースもそうですし、フロンティアーズもそうですけれども、オリパラもありましたし、スポーツに「挑」んで、「挑」戦して、すばらしい成績を収めた、そういった一年であったとも思います。私も3期目を迎えましたので、気持ちを新たに新しい「挑」戦をしていくという、そういう一年だったかなと思っています。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 補充でいいですか。念のため、読み方は「挑（いどむ）」でいいですか。

【市長】 はい、「挑（いどむ）」です。

【朝日（幹事社）】 御自身の直筆ということでよろしいですか。

【市長】 はい。

【朝日（幹事社）】 毛筆で書かれたという……。

【市長】 はい。

【時事（幹事社）】 各社、お願いします。

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、今年の漢字として「挑」と選ばれたということですが、来年はどんな一年になってほしいと思われませんか。

【市長】 やっぱり一日も早くコロナが収束して、みんなが安心して、普通のと言ったらあれですけれども、日常を取り戻す、そういった平和な一年であることを願っています。

【神奈川】 来年、普通の日常を取り戻すのはいつぐらいになると……。

【市長】 本当に一日も早くしたいですけれどもね。ですから、そういう意味では、3回目のワクチン接種も、もう一部始まっていますけれども、滞りなくやっていきたい、スピーディーにやっていきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【読売】 読売です。関連ですが、来年1年間で、市長さんのスケジュール表に大書してあるような大きな予定はございますか。

【市長】 大きな予定ですか。この3月12日も大変大きなイベントだとは思っていますが、特に私、今ぱっと思い出すものはないですかね。この3月12日は本当に川崎市にとっても大きな意味を持つ日ですし、あと何かというと、ちょっと思いつかないですね。すいません。

【読売】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

#### 《「多摩川スカイブリッジ」がいよいよ開通します》

【朝日（幹事社）】 朝日新聞です。橋の開通で、これまで以上に殿町地区の利便性が増していくという面があるのと、一方で、例えば特区指定とかだと、東京湾の臨海部で指定されていたりはするわけですよ。橋ができることで、例えば、南部とかよりも東京都内、大田区ですとか、割と産業構造とかも重なるところはあるかと思うんで

すけれども、そういったところでの手を携えてとか、そういった構想は描いていらっしやるんでしょうか。

【市長】 ええ。実際に、大田区との産業連携、経済連携は協定に基づいて進めて、昔からやっていて、いろんな取組をもう現時点でやっていますので、それがさらに加速することになる契機になるのではないかなと思います。殿町地区だけじゃなくて、臨海部全体の意味でも非常に効果の大きい橋、インフラになるとは思っていますので、大田区側にとってもそうかもしれませんし。

【朝日（幹事社）】 これまで以上に、行政の境、圏域であるとかそういったことの意識は薄く……。

【市長】 そうですね。そもそも、これ、多摩川のあっちだこっちだとかという話じゃなくて、あのエリア全体の価値を高めていくためにも非常に必要なインフラだと思っていますので、そういったところにハードな部分とソフトな部分が合わさってくると相乗効果が高まっていくんじゃないかなと思っています。

【東京】 東京新聞ですけれども、世界の玄関口になるというお話でしたけれども、実質、コロナで今、海外からの方、厳しい時代がやってきているかと思うんですが、この橋が開通して、その後、少し海外に目を向けたときに、こういうことができるんじゃないかみたいな、せっかく架かった橋ですし、構想というか、夢みたいなのはあったりしますでしょうか。

【市長】 必ずコロナは収束しますし、往来も多くなっていくというのは思いますので、そういった意味では、これまで少し抑制されていたものが元のところに戻っていくということにおいては、延々とコロナが続くわけではないので、そういう意味では、これまで取り組んできたことの成果が出せるタイミングになってくるのではないかなと思っています。

メインストリームの経済の話ではありませんけれども、例えば観光のことについても、ナイトタイムエコノミーやるって言っていてできなかったものが、当然人の往来だとか出てくると復活することもあるでしょうし、そういったものに少し副次的な効果もあるのではないかなと思います。

【神奈川】 度々すみません、神奈川新聞ですが、先ほど、悲願の橋ということでおっしゃいましたけれども、実際、この橋は構想が持ち上がってから、いろいろ紆余曲折があって、この3月12日に至るということだと思うんですけども、その辺の思いをもう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

【市長】 元はと言えば、神奈川口構想という名称から始まり、それで本当に紆余曲

折あって、大田区さんとか東京都側さんとかも含めて理解がなかなか難しかった部分というのは、そういう意味では、私も市長に就任して一番最初に訪れたのが大田区長だったということもあり、この橋が非常に大きな意味を持つということで、職員一丸となって取り組んできたところですから、そういった意味では、協力していただいた方に改めてすごく感謝したいと思っています。

菅前総理をはじめ、御理解をいただいた方がたくさんいらっしゃって、そういう人たち、大田区だとか東京都だとか国交省だとかという、そういう人たちの理解があって、ようやくここにたどり着けたという意味では、いろんな困難があったからこそ、何となく思い出も深い橋になったとは思っています。

【神奈川】 最初はやはり東京のほうも、名前からしていろんな、ごたごたというか、意見があったりして、なかなか実現しなかったけれども、ここに来たのはいろんな方の協力はあったと思うんですが、ほかにも、今回実現に至った要素は何かあったんでしょうか。

【市長】 やっぱ羽田空港の位置付けというのが以前よりも、今、本当にコロナの異常事態でありますけれども、羽田の位置付けが大きく変わったということだと思います。国際線の便数だとかも格段に増えましたし、結ぶ都市の数もすごく増えたという意味では、日本における羽田の位置付けが非常に大きく変わってきたのも一つの要素ではないかとは思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【読売】 細かいところですけども、4月からバス路線って書かれている、これ、市営バスということですか。

【市長】 臨港バスさんです。

【読売】 ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 一方で、企業の張り付きという意味では、割と面積は限られていて、もうそんなに空きは、あと高さ制限とかもあり、ほかに何か川崎の中での横展開というんですか、それは今後どうなって……。

【市長】 いわゆる今後、JFEの大きな土地利用転換もありますし、それは扇島だけではないので、含め、いろんなところという意味では、臨海部全体にいろんな動きが出てきますので。

#### 《「アベノマスク」について》

【読売】 全然関係ない話で、念のため伺うんですけど、アベノマスクの引き取りを何か御検討した経緯ございますか。

【市長】 いえ、ごめんなさい、ありません。

【読売】 ありませんか。分かりました。ありがとうございます。

#### 《「川崎市犯罪被害者等支援条例」について》

【東京】 一般の質問で、今議会で犯罪被害者等支援条例が可決しましたが、この間、議会でも陳情が出され、附帯決議案が出され、修正案も含め、非常に熱心にとにかく、御議論の結果の可決であったと思います。今回、議会等でも様々意見が上がった部分も含めて、この成立について、現状どういうふうを受け止めていらっしゃるか伺えますか。

【市長】 議会の皆さんで大いに議論していただいたことは大変ありがたいことだと思いますし、そういう意味では、教育支援の在り方だとかという、これから運用でやっていく部分をどうメニューをつくっていくかは非常に参考になる御意見をいただいたと思いますし、この議論をしっかりと生かしていきたいとは思っております。

【東京】 それと、もう一つ、陳情の中では、今回、過去の事件だけでも、必要な支援は弾力的に運用してもらえないかというような生活支援などに対する要望も出されていたかと思うんですけれども、現状の枠組みだと遡及はしないことになっているので、かなわない部分も仕組みとしてあるのかなと思うんですが、その辺りの折り合いとか、その辺りも議論になった部分ではあるかと思うんですけれども、現状、どういう方向性でこれから具体的な支援を考えられるかというのは……。

【市長】 制度は制度で遡及はしませんが、今回の制度に基づいて運用していくと。過去、登戸事件だけじゃなくて、これまでもいろんな犯罪被害に遭われた方、お困り事、悩みだとかということ、たくさんあるでしょうから、そういった方々に対しても、条例云々の話だけではなくて、しっかりと寄り添っていくことが大事だと思います。

【東京】 分かりました。そうすると、寄り添った形での、これからまたさらに支援内容とか、制度設計、要綱等で詰めていくという形にもなる。過去の事件のお困り事など、恐らくお持ちの方は多いと思うんですけれども、その辺りは条例に関わらず、条例とはまた別の形で……。

【市長】 これまでも、条例がなかったですけれども、対応してきたことってございます。ですから、そういうことなんだと御理解いただければと思います。

【東京】 これまで独自でやってきたような形とかですね。

【市長】 はい、そうですね。

【東京】 分かりました。

【司会】 いかがでございましょうか。

## 《「子育て世帯への臨時特別給付金」について》

【朝日（幹事社）】 あと、ちょっともう旧聞ですけど、今回の10万円給付なんですけれども、これまでも、例えば当初予算とかをつくるに当たって、国の予算の成立を待たずして自治体のほうで先行してという形があるかと思うんですけれども、今回まさに国の補正が決まる前にいろいろ対応を強いられたことで、何か御所見があれば。

【市長】 やはり国もいろいろ考えていただいているとは思いますが、このコロナにどうやって下支えしなくちゃいけないというふうなの、気持ちは一緒です。気持ちは一緒なんですけれども、やはり自治体の事務がものすごく大変になってくるということというのは、一つ何かを国全体で動かそうとすると、基礎自治体が最も事務量がありますから、そういった意味では、とにかくなるべく早めに制度設計を教えてくださいとか決めていただくことが大事だと思います。そういう意味でも、自治体の意見を事前にヒアリングだとか酌み取ることが僕は大事なかなと思います。そのほうがみんなにとってやりやすいと思いますので。本当にそういうのがどんどんどんどん追加メニューで来ていると、正直言って職員も疲弊していますので、そういう意味では、企画の段階から自治体の意見をしっかりと聞いていただくことは大事かと思っています。

【朝日（幹事社）】 もうちょっと聞く力が、あれなんですかね。

【市長】 総理もそうおっしゃっておられるので、ぜひ聞いていただきたいというふうなことですかね。

【朝日（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

（以上）

---

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）0312